
大学教育学会ニュースレター

No.106 2017.10.2.

一般社団法人大学教育学会 (Japan Association for College and University Education)

事務局：〒252-0231 神奈川県相模原市中央区相模原 2-8-20-204

TEL/FAX：(042) 707-8112

郵便振替口座：00210-9-102857 一般社団法人大学教育学会

e-mail:jacue.office@gmail.com URL: <http://www.daigakukyoku-gakkai.org/>

大学教育学会 2017 年度課題研究集会 統一テーマ 「大学教育は“役に立つ”のか」

大学教育学会 2017 年度課題研究集会 実行委員長
藤木 清 (関西国際大学)

このたび、大学教育学会 2017 年度課題研究集会を、12 月 2 日 (土)、3 日 (日) に関西国際大学尼崎キャンパスで開催する運びとなりました。ここに実行委員長として、ご挨拶を申し上げます。

「大学教育は役に立っていない」という批判は、これまでも産業界やマスコミから、根拠の有無にかかわらずなされてきました。昨今、就職状況は好転したと言われつつも、就業構造はこれから AI やロボットの発達で日本人雇用者の 49% が職業移動を余儀なくされるという大変革期にあり、“就職したら何とかなる”ということが言えなくなってきました。私たちが考えなければならないのは『大学教育が“役に立つ”』とはどういうことなのか、という課題です。大学教育は中長期的な視点に立ち、学生にどのようなことを学ばせ、身につけさせることが必要なのかを考えなければなりません。

アクティブラーニングが伸ばそうとしている力、あるいは STEM (Science, Technology, Engineering and Mathematics) 教育を通じて身につけさせようとしている力、いずれも大学側が「役に立つ」ことを期待しての取り組みともいえます。一方、社会からも先端的な教育や教養など、さまざまな立場から、役に立つ大学教育が求められています。

これらを視野に入れつつ、本課題研究集会では、“役に立つ”ということがどのような意味を持ち、大学教育が果たす役割とは何なのかということ、原点に返って問い直したいと思います。

1 日目の基調講演では、若者の就業に関する現状・課題や職業能力開発などに関する現状と課題について、これまで厚生労働省や文部科学省の様々な審議会の委員を務めてこられた独立行政法人労働政策研究・研修機構特任フェローの小杉礼子氏にお話しいただきます。

大会校企画シンポジウムでは、産業界と大学のそれぞれの立場、そして両者をつなぐ立場から話題を提供していただきます。シンポジストには、本学会会員に加え、元日本銀行神戸支店長、民間企業社長を経て独立行政法人日本学生支援機構理事長を務め、産業界と大学の両者の状況に詳しい遠藤勝裕氏を招聘いたしました。遠藤氏には、産業界の立場から企業社会が求める人材像についてご意見をいただきます。また、その後のパネルディスカッションには小杉氏にも加わって頂き、大学と産業界の直接の接点であるインターンシップや採用活動に注目しつつ、両者の間にどのようなギャップがあるのか、それはチューニングしていくことが可能なのか、また大学教育が果たすべき機能や役割について議論していただきます。

2 日目には、大学教育学会の課題研究として取り組んでいる研究の成果報告が 2 件のシンポジウムとして開催されます。午前中は、「アクティブラーニングの効果検証」として、今や多くの大学で導入されているアクティブラーニングについて、学生の学びへの効果に焦点をあて、議論されます。午後は、「現代のリベラルアーツとしての理数工系科目 (STEM) の開発と教育実践」として、これからの時代の大学教育に求められる STEM 教育の在り方や実践について議論されます。

また、昨年度に引き続き、1日目には「ポスター・セッション」を開催します。さらに、2日目には新しい試みとして「インタラクティブ・セッション」を実施いたします。本セッションは、会員間の交流をより深化・拡大することをめざすために、発表者による情報提供の時間は5～6割程度にとどめ、質疑応答や全体議論の時間に加えて、参加者同士でのペアもしくはグループワークの時間を十分にとっていただく新たな試行セッションです。

本課題研究集会は、これからの大学教育の在り方や課題を考え、議論する内容となっています。JR 尼崎駅から徒歩約6分の便利な都市型キャンパスでの開催となっておりますので、多くの皆様にご参加いただきますよう実行委員会一同お待ちしております。

大学教育学会 2017 年度課題研究集会

実施要項

統一テーマ：「大学教育は“役に立つ”のか」

主催：一般社団法人大学教育学会

共催：関西国際大学

期日：2017年12月2日（土）・3日（日）

会場：関西国際大学 尼崎キャンパス（尼崎市潮江1丁目3-23）

【スケジュール】

第1日：

11:00 12:00 12:50 13:00 13:30 14:30 15:20 15:30 18:00 18:30 20:00

| | | | | | | | | | |
|----|------------------------|----|----------|----------|------------------------|----|-----------------|----|-----------|
| 受付 | ポスター・セッション (コアタイムⅠ) | 移動 | 開会 挨拶 | 基調 講演 | ポスター・セッション (コアタイムⅡ) | 移動 | 開催校企画 シンポジウム | 移動 | 情報 交換会 |
|----|------------------------|----|----------|----------|------------------------|----|-----------------|----|-----------|

情報交換会会場：ホテル「ホップイン」アミング2階 オーク

第2日：

9:00 9:30 12:00 13:15 15:45 16:00

| | | | | |
|----|--------------------------------|----|--------------------------------|----------|
| 受付 | 課題研究シンポジウムⅠ／ インタラクティブ・セッション | 昼食 | 課題研究シンポジウムⅡ／ インタラクティブ・セッション | 閉会 挨拶 |
|----|--------------------------------|----|--------------------------------|----------|

関連行事

12月2日（土） 9:30～11:30 理事会 [関西国際大学尼崎キャンパス 10階大会議室]

11:00 受付開始 [3階ロビー]

12:00~12:50 ポスター・セッション コアタイムⅠ [5階 507中講義室・508中講義室]

13:00~13:30 開会行事 [3階 KUISホール]

総合司会：藤木 清（関西国際大学）実行委員長

開催大学挨拶 濱名 篤（関西国際大学学長）企画委員長

学会会長挨拶 山田 礼子（同志社大学）

13:30~14:30 【基調講演】「職業キャリアの変化と大学の役割」[3階 KUISホール]

講演講師 小杉 礼子（独立行政法人 労働政策研究・研修機構 特任フェロー）

小杉礼子氏は、若年者のキャリア形成及び職業能力開発について研究してこられ、最近では、大卒者の職業キャリアの変化に関する論文を執筆されました。これまでのご研究の知見として、特に、若者の就業に関する現状及び課題についてご披露いただき、大学教育や今後の産学連携への期待についてもお考えをお聞かせいただきたいと思います。

講師紹介：独立行政法人 労働政策研究・研修機構 特任フェロー。「学校から職業への移行」、「若年者のキャリア形成・職業能力開発」などをテーマに社会学的視点からの実証研究に携わる。中央教育審議会臨時委員、労働政策審議会委員他。著書『若者と初期キャリア―「非典型」からの出発のために』（勁草書房、2010、第33回労働関係図書優秀賞）、共編著『大学生の就職とキャリア―「普通」の就活・個別の支援』（勁草書房、2007）共編著『高校・大学の未就職者への支援』（勁草書房、2011）他。

14:40~15:20 ポスター・セッション コアタイムⅡ [5階 507中講義室・508中講義室]

15:30~18:00 【開催校企画シンポジウム】 [3階 KUISホール]

テーマ：「大学教育は“役に立つ”のか」

今回のテーマの趣旨に沿い、独立行政法人日本学生支援機構の遠藤勝裕理事長からはご自身の経験を踏まえて産業界の視点から、また、上村和美会員（関西国際大学）からは、インターンシップを中心とした産学連携による大学教育の実践について話題提供をしていただきます。また、松村直樹会員（株式会社リアセック）からはキャリア教育研究の視点から、大学で身につけるべき能力やそれを測定するテスト等について発言していただきます。そして、Association of American Colleges & Universities（全米大学・カレッジ協会）のSusan Albertines氏からは、アメリカにおける事例紹介を踏まえたコメントをいただきます。その後、小杉氏を含めた4人のパネリストには、「“役に立つ”大学教育とは何なのか」、「産業界と大学はどのような連携を行うことができるのか」について、徹底討論をしていただきます。

パネリスト：

- 1 遠藤 勝裕（独立行政法人 日本学生支援機構 理事長） 産業界の視点から
- 2 上村 和美（関西国際大学教授・人間科学部長） 大学教育実践の視点から
- 3 松村 直樹（株式会社リアセック 代表取締役） キャリア教育研究の視点から
- 4 小杉 礼子（独立行政法人 労働政策研究・研修機構 特任フェロー）

コメンテーター：Dr. Susan Albertine（全米大学・カレッジ協会 上級研究員、大阪大学 特任教授）

通訳：深堀聰子（国立教育政策研究所 高等教育研究部長）

司会者：深澤晶久（実践女子大学 特任教授）

18:30~20:00 情報交換会 ホテル「ホップイン」アミング

【ポスター・セッション発表者一覧】

1. 大学ではどのような授業が実施されていると学生は感じているか
○安岡 高志 (立命館大学)
土岐 智賀子 (立命館大学)
2. 保健医療福祉学部における初年次教育の取り組み
—2017年度の初年次必修科目「スタートアップ・セミナー」の授業概要—
○石原 正三 (埼玉県立大学)
3. 「学位授与の方針」に対する学修成果の可視化を目的としたポートフォリオシステム「In Folio (アイフォリオ)」の運用
○江本 理恵 (岩手大学)
4. 社会で役立つ、必要最低限の実用作文教育の実施
○庄司 善彦 (兵庫県立大学)
5. 障害のある学生支援を行う支援室と連携した障害、特に発達障害のある学生への授業支援Ⅲ
—合理的配慮とは何か?—
○田実 潔 (北星学園大学)
佐藤 祐基 (北星学園大学・非会員)
6. アクティブ・ラーニングの推進を通じた組織変容に関する考察
—AL ベストティーチャー表彰制度と『Teaching & Learning Catalog』を中心に—
○林 透 (山口大学)、○篠田 雅人 (山口大学)
斎藤 有吾 (京都大学)
7. 大学生による大学生のための文章作成支援活動は上級生サポーターに何をもたらしているか?
○池田 史子 (山口県立大学)
8. 芝浦工業大学における授業外学習を促すシラバスの書き方 WS の成果と課題
○奥田 宏志 (芝浦工業大学)
榊原 暢久 (芝浦工業大学)、ホートン 広瀬 恵美子 (芝浦工業大学)
9. 長崎大学における学修成果の可視化を目指した取り組み
○前田 裕介 (長崎大学)、○成瀬 尚志 (長崎大学)
北村 史 (長崎大学・非会員)
10. 初年次教育科目の推進に伴う教員のティーチングに関する意識調査
—徳島大学 SIH 道場の実践事例から—
○上田 勇仁 (徳島大学)
吉田 博 (徳島大学)
11. ポリシーに沿った看護学実習評価ルーブリックの策定過程
○西野 毅朗 (京都橘大学)
河原 宣子、梶谷 佳子、奥野 信行、中橋 苗代、深山 つかさ (京都橘大学・非会員)

12. 高校出張講義におけるアクティブラーニングの有用性
○青野 透 (徳島文理大学)
生駒 佳也 (徳島市立高等学校・非会員)
13. 研究大学における学生の学業達成に影響を与える要因分析の試行
—学習成果を基盤としたアセスメントを目指して—
○和嶋 雄一郎 (大阪大学)
安部 有紀子 (大阪大学)
14. 医療系大学で学ぶ学生の入学動機からみた学習時間に関する検討
○森川 恵子 (純真学園大学)
杉井 裕 (純真学園大学)
15. 医療系大学で学ぶ学生の生活環境が与える学習活動への影響に関する検討
○杉井 裕 (純真学園大学)
森川 恵子 (純真学園大学)
16. 学際性を養成するプレFD
—京都大学大学院人間・環境学研究科における院生発案型プレFD「総人のミカタ」をめぐって—
○佐野 泰之 (京都大学)
萩原 広道 (京都大学大学院)
真鍋 公希、谷川 嘉浩、杉谷 和哉、須田 智晴、近藤 望 (京都大学大学院・非会員)
17. 短大生調査を通じた短大教育の有用性の検証
○堺 完 (立教大学)、○山崎 慎一 (桜美林大学)
黄 海玉 (短期大学基準協会・非会員)、宮里 将大 (桜美林大学大学院・非会員)
18. 有用性に力点を置いた理工系数学初年次科目のデザイン
—4つの視点から微分積分学・線形代数の教育をデザインする—
○水町 龍一 (湘南工科大学)
19. アクティブラーニング・スペクトラムの開発
○飯尾 健 (京都大学大学院)
溝口 侑 (京都大学大学院・非会員)、和田 翔二郎 (学校法人河合塾・非会員)
松下 佳代 (京都大学)
20. 国立大学におけるディプロマ・ポリシーの傾向と「学士力」との比較
○真名瀬 陽平 (筑波大学)
佐々木 銀河、五味 洋一、青木 真純、竹田 一則 (筑波大学・非会員)
21. 大規模私立大学におけるエンロールメント・マネジメントの展開
○姉川 恭子 (早稲田大学)
22. 「FDプログラム認証」の枠組に関する開発的研究
○加藤 かおり (国立教育政策研究所)
杉原 真晃 (聖心女子大学)、川島 啓二 (九州大学)、沖 裕貴 (立命館大学)

23. ラーニング・コモنزの利用促進を目指した取組の成果と課題

—創価大学 SPACe における学習セミナーの実践から—

○木原 宏子 (創価大学)

三好 香里 (創価大学・非会員)

24. 多面的・総合的な入学者選抜入学生の追跡研究

—アンケートから見える研究的志向等の考察—

○石倉 友季子 (大阪大学)、○井ノ上 憲司 (大阪大学)

25. 多様な学生が主体的に参画する大学での居場所づくり

—「共感」と「協働」に着目して—

○井上 怜 (流通科学大学 学生)、○湯浅 史菜 (流通科学大学 学生)

○板倉 辰弥 (流通科学大学 学生)、○山田 善亮 (流通科学大学 学生)

26. 大学における工学教育の転換点—JABEE を一例として—

○竹永 啓悟 (同志社大学大学院)

※会員の所属の記載は、学会に登録されている所属先を記載しています。

第2日 12月3日(日)

9:00 受付開始 [3階ロビー]

9:30~12:00

【課題研究シンポジウムⅠ】 [3階 KUIS ホール]

テーマ:「アクティブラーニングの効果検証—プロジェクト最終年を迎えて」

本シンポジウムは、課題研究「アクティブラーニングの効果検証」に関する3年目最終年度の報告である。高等教育のみならず、初等・中等教育まで下りて全学校教育段階でアクティブラーニング(AL)が導入・推進されようとしているなか、アクティブラーニングの効果検証は喫緊の課題である。この3年間数百のAL型授業を対象に、プレ・ポスト調査を大規模におこない分析した結果、資質・能力や深い学びにAL型授業は効果があるという結果は大きくは得られたことが、まずはこの課題研究の最大の成果だといえる(三保会員)。個人の経験レベル、授業別のマルチレベルともに、効果は認められている。なかには、効果が見られないAL型授業はもちろん少なからずある。ここでの結果はあくまで平均的な結果である。なお、成績との関連は検討を引き続きおこなう必要がある。少なくとも、どんなAL型授業でも、それをおこなえば成績が上がるということはいえないだろうし、成績のつけ方のバラエティも相当多様なので、そのあたりを今後は細かく見ていかなければならない。

当日は、プロジェクトを補完する成果として、教員がAL型授業をどのようにつくっているのか(山田嘉徳会員)、フリーライダーの弁別(山田邦雅会員)、教室外学修(長澤会員)の実態についても報告をおこなう。最後は企画者である溝上よりまとめをおこない、今後につなげる。

企画者・司会者: 溝上慎一 (京都大学)

シンポジスト:

三保紀裕 (京都学園大学)「プレ・ポスト調査からみたアクティブラーニング—3年間の調査結果のまとめ—」

山田嘉徳 (大阪産業大学)「アクティブラーニングの効果に寄与する要因の質的検討—アクティブラーニング型授業を展開する教員へのインタビュー調査から—」

山田邦雅（北海道大学）「グループ学習におけるフリーライダーの弁別と他者への影響」
長澤多代（三重大学）「アクティブラーニング型授業における教室外学修の実態：山口大学
におけるアクションリサーチをもとに」
溝上慎一（京都大学）「総括的まとめ」

12:00～13:15 昼食休憩

※事前にお申込みされた方には、2階食堂で引換券により昼食をお渡しします。

13:15～15:45

【課題研究シンポジウムⅡ】 [3階 KUIS ホール]

テーマ：「現代のリベラルアーツとしての理数工系科目（STEM）の開発と教育実践のために」

世界的に新しいSTEM (Science, Technology, Engineering and Mathematics) 教育が推進されている。米国では第2期オバマ政権が2013年にSTEM教育5カ年計画を提出し、初等中等教育でのSTEM教育の向上、高等教育でのSTEM卒業生数の増大を目標に毎年数十億ドルの予算を投入している。EU諸国では産業構造の変化に合わせたSTEM教育の拡充が進められている。日本でも、科学技術基本計画が5期目に入り、特に高等教育では優秀な科学技術者の養成や広くSTEM関連分野に必要な基盤的な力の養成が期待されている。

国内の高等教育では、STEM卒業生数の増大よりもSTEM教育を多数の学生に浸透させることが期待されている。また、いくつかの国立大学では、文理融合の学部が設置されつつある。したがって日本の大学でのSTEM教育の拡充は、とりもなおさず個々の大学でのSTEM教育の拡充が重要である。しかし、単に拡充を求めるだけでは実施は難しいことが推測される。各大学で導入するためには、先行する具体的な例を参照する機会があることが望まれる。

また、STEM教育の目的は経済競争の基盤強化のみならず、科学技術のリスクをコントロールするために、市民が科学技術への理解と判断力を持つことにある。そのためには人権や平等など人間的価値の実現のための教育、すなわちリベラル教育とセットで構想される必要がある。これを、いかに具体化するかを、諸外国の動向を調査しながら、検討することが期待される。

本シンポジウムではこれらを考慮して、数学教育の変革をねらった「数学リテラシー科目の開発と実践：共通教育としての取り組み」、諸外国の動向を知るための「AAC&U STEM Meeting 2017の報告」と文理融合を検討するための「文理融合の新しいSTEMプログラム：シンガポール、米国、日本の事例を中心に」に関する討論を企画している。

企画者：細川 敏幸（北海道大学）、齊藤 準（帯広畜産大学）、宇野 勝博（大阪大学）、
川添 充（大阪府立大学）、五島 譲司（新潟大学）、齋藤 芳子（名古屋大学）、
鈴木 久男（北海道大学）、高橋 哲也（大阪府立大学）、塚原 修一（関西国際大学）、
西村 秀雄（金沢工業大学）、濱名 篤（関西国際大学）、森 利枝（大学改革支援・学位授与機構）、
山田 礼子（同志社大学）、山本 一雄（神奈川工科大学）、吉永 契一郎（金沢大学）、
小笠原 正明（北海道大学）

司会者：細川 敏幸（北海道大学）

サブテーマ1：数学リテラシー科目の開発と実践：共通教育としての取り組み

講演者：五島 譲司（新潟大学）

サブテーマ2：文理融合の新しいSTEMプログラム：シンガポール、米国、日本の事例を中心に

講演者：山田 礼子（同志社大学）

サブテーマ3：AAC&U STEM Meeting 2017の報告

講演者：鈴木 久男（北海道大学）

○インタラクティブ・セッション [5階 505/506 演習室]

9:30~10:30

1. 大学 IR の「失敗」事例

—ケース（事例）を用いたワークショップによる IR 理解を目指して—
○上島 洋佑（金沢大学）、○荒木 俊博（淑徳大学）、○沖 清豪（早稲田大学）
姉川 恭子（早稲田大学）

10:45~11:45

2. これからの大学教育の第 3 の対象層としての社会人の学びを設計する

—米国の CBE プログラムと日本の履修証明プログラムを手がかりに—
○濱名 篤（関西国際大学）、○山田 礼子（同志社大学）

13:15~14:15

3. 教養としてのイノベーション教育の試み

—大阪大学「イノベーションのためのパトス・エトス・ロゴス」の紹介と体験—
○佐藤 浩章（大阪大学）、○佐藤 文亮（(株)ワークスアプリケーションズ）

14:30~15:30

4. 「第三の領域」における教職員のキャリア形成

○二宮 祐（群馬大学）、○浜島 幸司（同志社大学）、○小島 佐恵子（玉川大学）

15:45~16:00 閉会行事 [3階 KUIS ホール]

副会長挨拶 松下 佳代（京都大学）

次年度大会開催校・課題研究集会開催校紹介

閉会挨拶 2017年度課題研究集会実行委員長 藤木 清（関西国際大学）

＜課題研究集会参加申込み要領＞

1. 参加申し込みについて

課題研究集会に参加される方は、以下の要領で参加申し込み及び参加費等の支払いを行ってください。なお、準備の都合上、事前申し込みにご協力ください。事前申し込みは、参加費等のお支払いをクレジットで行うか、振り込みで行うかを選択のうえ、それぞれの下記 URL にアクセスしてください。

【参加費用一覧】

| 費用項目 | | 事前申し込み(11月10日(金)まで) | | 大会当日 |
|----------------------------------|-------|---------------------|-------------------|---------|
| | | 郵便振替・ 銀行振込 | クレジット払い (手数料込) | 現金 |
| 参加費 | 会員・一般 | 5,000 円 | 5,100 円 | 6,000 円 |
| | 学生 | 1,000 円 | 1,000 円 | 1,000 円 |
| 情報交換会費 (できるだけ事前にお申し込みください) | 会員・一般 | 5,000 円 | 5,100 円 | 6,000 円 |
| | 学生 | 2,000 円 | 2,100 円 | 2,000 円 |
| 12月3日(日)のお弁当 | | 1,000 円 (税込) | | |
| 『要旨集』のみ (大会に参加されず、要旨集のみご希望の方) | | 1部 1,000 円 (送料込) | | |

- ・ 払込みされた参加費等は、理由を問わず返却いたしません。あらかじめご了承ください。
- ・ 参加費等を払込みながらご欠席の場合は、後日、『要旨集』をお送りします。

クレジット用事前申し込み

<http://www2.kingtour.com/ev/u/?cvid=daigakukyoiku12c>
学会ホームページからもアクセスできます。

- 申込サイトは11月10日(金)に閉鎖します。11月10日(金)までに事前にお申し込みをされなかった方は、大会当日に受付にて当日料金をお支払いください(現金のみ)。
- クレジット払いは個人が対象となります。複数名での申し込みや個人以外による申し込みは、「事前申し込み(振り込み)」の欄をご覧ください。

事前申し込み(振り込み)

<http://www2.kingtour.com/ev/u/?cvid=daigakukyoiku12>
学会ホームページからもアクセスできます。

- 参加にかかる合計金額(情報交換会参加・お弁当代を含む)を11月10日(金)までに郵便局等からお振り込み下さい(振込手数料はご負担下さい)。ご送金人氏名と参加申込人氏名は同一でお願いします。複数名で申し込みをする場合は、次の点を必ず振込み用紙に記載してください。【大学名及び参加者氏名(全員分)、申込内容(参加費、情報交換会費、お弁当代)、問い合わせ時の連絡先の電話番号、参加登録申込時の受付番号】

※参加登録後、ご入力メールアドレスに受付番号を含んだ登録完了メールが自動返信されます。

- 振替口座は11月10日(金)の入金を待って閉鎖します。11月10日(金)までに事前にお申し込みをされなかった方は、大会当日に受付にて当日料金をお支払いください(現金のみ)。
- 支払方法は次の通りです(振替口座は11月10日(金)の入金を待って閉鎖します)。

- ・ ゆうちょ銀行から

ニュースレターに同封または郵便局に備え付けの払込取扱票、ATMにより以下へお振込下さい。

口座記号番号：00980-4-236734

加入者名：大学教育学会2017年度課題研究集会実行委員会

(ダイガクキョウイクガツカイニセンジュウナナネンドカ)

・ 郵便局以外の金融機関から

銀行名（金融機関コード）：ゆうちょ銀行（9900）
店名（店番）：〇九九（ゼロキユウキユウ）店（099）
預金種目：当座
口座番号：0236734
加入者名：大学教育学会 2017 年度課題研究集会実行委員会
（ダイガクキョウイクガッカイニセンジュウナナネンドカ）

- 締め切り後にご入金の場合、課題研究集会当日までに入金を確認できないことがありますので、ご入金時の郵便振替払込請求書兼受領証を当日ご持参ください。なお、締め切り後のご入金の場合は当日受付扱いとなりますので、差額を受付時にお支払いいただくこととなります。

2. 12月3日（日）の昼食

12月3日（日）は、大学構内の食堂は営業しておりません。事前に申し込みをされた方のみ、食堂で弁当をお渡しします（当日販売なし）。

大学周辺の飲食店やコンビニをご利用ください。ただし、日曜日は飲食店が混雑していることありますのでご注意ください。

3. 宿泊予約・託児室利用について

●宿泊予約について

大学教育学会 2017 年度課題研究集会にご参加の皆様方の宿泊は、「京王観光株式会社大阪西支店」にて案内させていただきます。会場への交通の便のよいホテルをご案内させていただきます。予約は先着順となりますので、ご宿泊手配をご希望の皆様は下記の URL から宿泊登録をお済ませください。予約ページには学会ホームページからもアクセスできます。

宿泊予約 URL：http://www2.kingtour.com/ev/u/?cvid=daigakukyoiku17s

※昨今外国からの観光客の増加に伴いホテルの手配が非常に難しくなっております。お早めにご予約いただきますようお願いいたします。なお早期に満室となる可能性がございますので予めご了承ください。（キャンセル待ちの受付はいたしておりません。）

募集期間：2017 年 10 月 2 日（月）～2017 年 11 月 10 日（金）

宿泊設定日：2017 年 12 月 1 日（金）、12 月 2 日（土）の宿泊分

ホテル：大阪・神戸方面のホテルをご案内いたします。ホテル詳細は宿泊登録の HP から詳細ご確認ください。

支払方法：銀行振込または、クレジットカードでのお支払となります。

【銀行口座】三菱東京 UFJ 銀行 振込第一支店

種別：当座預金 口座番号：9530900 加入者名：京王観光（株）

※お支払方法で銀行振込をご選択の場合は、2017 年 11 月 17 日（金）までに当社指定の口座へお振り込みください。

<お問い合わせ先>

京王観光株式会社 大阪西支店

〒550-0011 大阪府大阪市西区阿波座 1-3-15 J E I 西本町ビル 6F

TEL：06-6541-8828 FAX：06-6541-8820（平日 09:00～18:00・土日祝日休業）

メールアドレス：a.muroyama@keio-kanko.co.jp

担当 室山 絢子（むろやま あやこ）・薬師寺 里佳（やくしじ りか）

●託児室の開設について

大学教育学会 2017 年度課題研究集会にご参加の皆様方で託児室を必要とする場合は、下記までメールにてご連絡ください。下記の申込み期間中にご希望の方がいらっしゃる場合は託児室（5 階）を開室いたします。

開室日時：2017年12月2日（土） 13:00～18:00

2017年12月3日（日） 9:00～12:00, 13:00～16:00

※12/3の12:00～13:00にお子さまを一旦お戻しさせていただきます。

何卒ご配慮くださいますよう、お願い申し上げます。

申込期間：2017年10月2日（月）～11月24日（金）

対象年齢：2歳児～未就学児

利用料：1日あたり、お子さまお一人につき1,000円

※ご病気の場合はお預かりできません。

※ご利用いただく場合、当日の昼食、お気に入りのおもちゃ・本・学習用具などはご持参ください。

※お申し込みは先着で、定員になり次第締め切ります。お申し込みの際は、申込者のお名前・ご所属、お子さまのお名前・年齢・性別・アレルギーの有無をお知らせください。

<お申込み先>

大学教育学会 2017年度課題研究集会実行委員会事務局（e-mail: jacue_meeting2017@kuins.ac.jp）

4. その他

関西国際大学構内は禁煙です。喫煙は指定された場所（当日提示）でお願いします。

【会場へのアクセス】

最寄り駅：JR神戸線 尼崎駅

最寄駅からのアクセス：JR尼崎駅北出口よりデッキを通り徒歩約6分

ACCESS MAP



※駐車場はございません。お越しの際は公共交通機関をご利用ください

| | | |
|--------|---|------|
| 大阪 | JR神戸線新快速 | 約5分 |
| 三ノ宮 | JR神戸線新快速 | 約14分 |
| 京都 | JR神戸線・京都線新快速 | 約35分 |
| 宝塚 | JR福知山(宝塚)線快速 | 約18分 |
| 姫路 | JR山陽本線・神戸線新快速 | 約60分 |
| 新大阪 | JR神戸線・京都線新快速 | 約11分 |
| 京橋 | JR東西線 | 約17分 |
| 奈良 | JR大和路線大和路快速(大阪行) | 約65分 |
| 大津 | JR京都線新快速 | 約48分 |
| 大阪国際空港 | 伊丹市営バス 約25分 JR「伊丹」駅 JR福知山線快速 約6分 モノレール「堂池」駅 阪急宝塚線 阪急「梅田」駅 JR神戸線快速 約3分 約14分 約5分 JR「大阪」駅乗換 | |
| 神戸空港 | ボートライナーで三宮へ 「三ノ宮」駅からJR神戸線新快速 | 約40分 |

【2017年度課題研究集会 実行委員会】

関西国際大学

〒661-0976 尼崎市潮江 1-3-23

お問合せ用 E-Mail: jacue_meeting2017@kuins.ac.jp

＝事務局から＝

● 会費納入のお願い

今年度(2017年度)の会費が未納の会員には、請求書及び郵便払込票を同封させていただいております。速やかにご入金ください。納入が9月4日以降分については請求書及び郵便払込票が同封となっている場合がございます。納入済の場合、破棄していただければと思います。

領収書につきましては、郵便払込票の受領書をもって替えさせていただきます。

年会費等郵便振替口座 00210-9-102857 「一般社団法人大学教育学会」

ご入金は郵便払込票をご利用ください。やむを得ず、銀行からご入金を希望される場合は、入金前に必ず、以下の大学教育学会 学会業務取扱センターまでその旨ご連絡下さい。

<「入退会・会員登録情報変更・会費納入状況」の問い合わせ先>

大学教育学会 学会業務取扱センター

〒170-0002 東京都豊島区巣鴨1丁目24-1 第2ユニオンビル4F

TEL:03-5981-9824 FAX:03-5981-9852

E-mail:g022lges-mng@ml.gakkai.ne.jp

過年度会費の滞納がある場合は、学会誌の発送を見送る措置をとらせていただいております。

また、2018年第40回大会時の発表申込み(2018年2月頃募集予定)は、2017年度分までの会費が納入済みであることが条件となります。

納入状況は、学会ウェブサイトの会員ページ内にあります「会員情報の照会・更新」からご自身で確認可能です。もしくは、上記の大学教育学会 学会業務取扱センターまでお問い合わせください。

※課題研究集会時(12月2日(土)12時～16時、3日(日)9時～15時)は、会場に学会事務局の受付を設置し、未納分の会費納入、会誌バックナンバー・学会出版物の頒布予約等を行いますのでご利用ください。

● オンライン検索サービス提供開始について

会員検索サービスは、個人会員、団体会員が利用可能です。(ID・PWの入力が必要です。)

検索対象は個人会員のみです。

情報検索項目(基本情報)は、【氏名】、【カナ】、【所属先】、【専門領域】の4項目で検索(部分検索)可能です。その他の項目の開示・非開示については、会員本人の選択項目になります。

● 住所変更等会員情報更新のお願い

ご住所、ご所属や役職等に変更がある方は、速やかに、学会ウェブサイトの「会員ページ」にあります「会員情報の照会・更新」からご自身でご変更のほどお願い申し上げます。ID(会員番号)・PWを紛失された方は、上記の大学教育学会 学会業務取扱センターまでお問い合わせください。

定期刊行物は、宅配業者DM便を利用しているため、転居にともなう転送はされず数週間後、学会事務局へ返送されてまいります。何卒ご協力をお願いいたします。

● メールマガジンの受信設定のお願い

現在、会員の皆様に年2～3回、大学教育学会メール通信(メールマガジン)を配信しております。

しかし、受信拒否や宛先不明を理由に返送されてくるメールが多数あります。ご登録のアドレスにおいて学会事務局アドレスjacue.office@gmail.comより送信されましたメールを受信できるよう設定をお願い致します。

● 大学教育学会関連資料のご寄贈のお願い

特に探究している資料は、以下の通りです。学会事務局まで「着払い」でお送りください。

大会発表要旨集録等(1979,1981, 2000, 2002, 2004年)

課題研究集会要旨集(1981,1982,1985,1986,1987,1988,1989,1992,1993,1998,2001,2003, 2004,2005, 2008年)

その他、一般教育学会時代の資料についてもご寄贈をお待ちしています。

● **2017年度課題研究集会について**

2017年度課題研究集会は、12月2日(土)・3日(日) 関西国際大学尼崎キャンパスにて開催予定です。本文内の実施要項等に従い、奮ってお申し込みください。

● **大学教育学会第40回(2018年度)大会について**

2018年度第40回大会は、2018年6月9日(土)・10日(日)に筑波大学筑波キャンパスにて開催予定です。スケジュール、ラウンドテーブルや自由研究のお申し込みについては次号(NL107号)でお知らせします。

● **2018年度課題研究集会について**

2018年度課題研究集会は、2018年12月1日(土)・2日(日) 長崎国際大学にて開催予定です。詳細は決まり次第メールマガジン、ニュースレター等でお知らせします。

● **2017年度(第13回)大学教育学会奨励賞募集について【奨励賞選考委員会】**

大学教育学会奨励賞は、大学教育および大学教育研究の発展を期して設けられました。受賞対象者は本学会個人会員です。2017年度(第13回)受賞対象は過去4年間の学会誌(第36巻第1号から第39巻第2号まで)に掲載された論文です。応募は自薦・他薦を問いません。

- ① **提出書類** <自薦>論文、応募者の略歴及び業績一覧、応募理由(研究の意義・成果など1,000字以内) / <他薦>論文、推薦理由(研究の意義・成果など1,000字以内)
- ② **募集締切** 2018年1月12日(金)必着
- ③ **送付先** 一般社団法人大学教育学会事務局
〒252-0231 神奈川県相模原市中央区相模原2-8-20-204

なお奨励賞についての詳細は、「一般社団法人大学教育学会 表彰規程」(本学会ウェブサイト内掲載)第2章をご確認ください。

※学会事務局からのお知らせは、本学会ウェブサイトにも掲載いたします。
URL:<http://www.daigakukyoiku-gakkai.org/>



【大学教育学会事務局】

〒252-0231 神奈川県相模原市中央区相模原2-8-20-204

Tel/ Fax: 042-707-8112

E-mail: jacue.office@gmail.com

URL: <http://www.daigakukyoiku-gakkai.org/>

【入退会・会員登録情報変更・会費納入状況についてのお問い合わせ先】

大学教育学会 学会業務取扱センター

〒170-0002 東京都豊島区巢鴨1丁目24-1 第2ユニオンビル4F

TEL: 03-5981-9824 FAX: 03-5981-9852

E-mail: g022lges-mng@ml.gakkai.ne.jp